

葬儀

平均236万円、価格表示に注意を

日本消費者協会が2003年に実施したアンケート調査によると、葬儀費用の全国平均額は236.6万円。ただ、「何にどれくらい必要か」という内訳は一般にあまり知られていない。葬儀には、祭壇以外にも飲食や返礼品など付帯項目が多く、それだけで費用全体の50%以上を占めるケースも多い。適正価格で葬儀を行うには費用構成を知っておく必要がある。

葬儀費用は、大きく分けて「葬儀一式」「飲食接待の実費費用」「お布施（宗教者への謝礼）」の3つに分かれる。

100人規模の葬儀にかかる費用の目安と項目

	金額目安	内訳
葬儀一式	50万～200万円 平均価格帯120万～150万円	祭壇、棺、人件費、看板、受付備品など
実費費用	50万～100万円	通夜振る舞い、香典返し、霊柩車などの車両関係、式場使用料、火葬料など
お布施	30万～60万円（一般戒名） 都市部は高めの傾向あり	お通夜・告別式2日間の読経、戒名

（出所）筆者作成

葬儀一式とは、祭壇、お棺、人件費など葬儀そのものの費用を指し、葬儀社が直接用意するものが中心となる。利幅が大きい項目が中心で、特に定価もないため、葬儀社ごとにまちまちである。なかでも最も大きいのが祭壇で、25万円くらいから数百万円まで、大きさや装飾によって変わる。

注意を要するのは、葬儀社の広告に「葬儀一式〇〇万円」などと書かれている場合、後述の実費費用は含まれないことだ。一式という表記を「葬儀にかかる総額」

と誤解してのトラブルが多発している。実費費用は参列者への通夜振る舞いや香典返し、式場使用料など、葬儀周辺や参列者にかかる費用を指す。仕出しやギフトなどの専門業者がそれぞれ用意する。表向きは葬儀社が一括で手配し、精算の代行までするが、あくまで立て替えなので、葬儀社への報酬とは別途に支払う必要があるわけである。

各項目には定価があるため、葬儀社ごとの金額の開きは少ない。会葬者の人数で総額が決まる項目も多く、「単価×人数」という計算方法をとるのが特徴だ。

お布施は、読経・戒名などの寺院に払う費用の総称。金額は地域、宗派、寺院の格式や運営方針などで大きく異なる。葬儀社の見積もりには入らないが、確実に出て行く費用なので、予算に含めて考えておく必要がある。

総費用は、規模や参列者数、葬儀社の価格設定に大きく左右される。最終的に葬儀社に依頼する前に、実費を含めた総額の見積もり書を提示してもらい、よく吟味することが大切だ。

（市川 愛・葬儀相談員）